

# 課題解決型授業（主体的・対話的で深い学び）に関する調査研究プロジェクト

## 第3回 合同会議

- 1 日 時 平成30年6月8日（金） 15時～16時30分
- 2 場 所 旭川市立朝日小学校 図書室
- 3 参加者 旭川市立朝日小学校 三浦 一路，福嶋 顕勝，櫻井 啓子，  
宮腰 唯導，石塚 泰鑑  
旭川市立知新小学校 増田 展明  
旭川市立新町小学校 伊月真由美  
旭川市立中央中学校 成田麻友子，三上 貴也

### 4 内 容

#### (1) 研究内容について

##### ① 研究内容1について

・「習得－活用」のユニットイメージについて図を使いながら確認をしました。



#### 「習得－活用」のユニットイメージの提案

子供の思考の流れで学習展開を考えます。

「習得的な学び」では、今回の学習の中で獲得した、また今までの生活や学習の中で既に獲得していた様々な知識・技能を、整理したり、適切に選択したり、つなげたりしながら、問題を解決するための土台づくりを行います。

「活用的な学び」では、各教科等における「見方・考え方」をはたらかせ、解決策を創造するなどしながら追究活動をしていくことで、「習得的な学び」で体得した知識・技能が確実に定着し、更に子供の思考が広がり、深まっていくと考えます。

このような「習得的な学び」と「活用的な学び」を教科や領域の特性や単元，題材などのまとまりの中で意図的に組み合わせることで、いつでも、どこでも未知の状況においても活用できる、質の高い知識・技能となって、子供の思考に蓄えられていくと考えます。

## ② 研究内容2について

「思考アクティブ化シートA, B」の関連性、「学びの成果を実感するシート」(仮)について討議しました。

### 「思考アクティブ化シートA, B」の関連性

- 「思考アクティブ化シートB」を活用して授業づくりをしていくと、「課題意識重視」「対話重視」「活用重視」を意識するようになりますが、「深い学び」に結び付けていくためには、単元レベルで授業を構想することが大切です。
- 単元計画が一番大切です。子供と教師とで学習計画をつくり、可能な限り「思考アクティブ化シートB」(課題意識重視・対話重視・活用重視)を意識できるようになると、その日の授業で重点にする部分が明確になり、教師のスキルアップにつながります。



### 「学びの成果を実感するシート」について

- 子供たちに到達してほしい「深い学びの姿」を想定し、子供たちの思考の流れを予想して課題や学習計画をつくります。ゴールへ向かう途中でぶれないことが大切です。子供たち自身で学習計画をつくると、この時間の学習が、問題解決のための何の役に立っているのかが分かるようになります。
- 子供と問題解決の見通しを立てられたら、その思考の流れに沿った、子供が自分の学びをメタ認知するためのツール「学びの成果を実感するシート」を作成します。
- 子供の思考の流れによっては、単元の流し方を軌道修正することもあります。教師には単元の流れを修正したり、教科や領域をつなげたりする役割があります。目指す「深い学びの姿」がぶれないように注意するのは言うまでもありません。
- 教科の特性や各校の実情に合わせて、「学びの成果を実感するシート」(仮)を作成します。1単位時間ごとの場合もありますが、単元の構成に合わせて、「次」などのまとまりでシートを作成する場合があります。実際に学びの成果を書かせるときには、その授業に合わせた振り返りの視点を示すこともあります。各学校で活用しやすいシートを開発します。



## (2) 指導案について

- 「思考アクティブ化シートA, B」を活用して学習指導案を作成していることが分かるようにします。「思A②」や「思B-2⑤」などのように、留意点の欄に「思考アクティブ化ポイント」として表記します。

(3) 各校公開授業について

|       |               |               |
|-------|---------------|---------------|
| 知新小学校 | 9月 5日 (水) 午後  | 【公開研究会】       |
| 新町小学校 | 11月 5日 (月) 午後 | 【学力向上に係わる研究会】 |
|       | 11月29日 (木)    | 【公開研究会】       |
| 中央中学校 | 12月11日 (火)    | 【参観日】         |

5 実践推進校教頭より

ALPS-wとして目指したいことは…,

- ① 単元を通した学習過程を開発し、日常に定着させること。
- ② 見通しと振り返りの場面では、子供に自分の学びの行き先と今の立ち位置を明確にさせること。
- ③ 思考アクティブ化シートAで単元を構想し、思考アクティブ化シートBを単位時間の場面で活用することを日常化させること。
- ④ 一単元での問題解決が難しい教科、単元はユニット(次)に分けるなど、単元構成を臨機応変に工夫できること。